



傳設計ニュースレター

CONTENTS

- ◆ 今、伝えたいこと
～DX編その1「DXとは」～
- ◆ 障害者グループホーム
について
- ◆ ZEBプランナーに
登録されました！
- ◆ これからの木造建築物
の在り方
- ◆ 外壁剥落防止工法
『予防保全』のご紹介
～安藤工事株式会社様～
- ◆ DX化に向けて
- ◆ 2年ぶりの交流会
- ◆ 社員名鑑



今、伝えたいこと ～DX編その1「DXとは」～

桜の便りが次々に聞かれるこの折、皆様いかがお過ごしでしょうか。弊社舞鶴DSビルのすぐ傍にある長浜公園でも見事な桜が見られるので、事務所移転後のここ数年、私も春の訪れをより身近に感じることができています。

さて、前回のニュースレターで少し触れましたが、「DX」について学ぶため、年明けから3回にわたり東京の大学に講義を受けに行ってきました。(大学に講義を受けに行くのは云十年ぶりのこと。懐かしくも新鮮でした。)

DXとは「デジタルトランスフォーメーション(直訳:デジタル変革)」の略称で、単に業務プロセスをデジタル化・IT化するのではなく、データ及びデジタル技術を活用しビジネスモデルや企業文化などを根本から変革していくこととされています。情報(デジタルデータ)を連携・蓄積・活用することで、効率的な業務と働きやすい職場環境を実現し、より創造的・生産的な作業に時間を充てることのできるのです。売上や利益が向上すれば、社員の待遇改善にもつながります。といっても社内ではまだまだアナログ的なやり取りすらあり、社員一丸となってDXについての理解を深め、検討を始めたところです。

また建築業界でもDX化の取り組みが始まっています。建築確認のオンライン化、中間・完了検査の遠隔実施、定期報告のデジタル化といった「建築行政手続きのDX」。設計前の調査・企画・設計・施工・そして建物の維持管理につながる基本的な情報を共有し、活用するための建築BIMの社会実装化やAI等の活用による生産性の向上といった「建築生産のDX」、これらを一体的に推進することが必要とされています。まだまだ、課題が多いですが、国は待ったなしで進めています。この流れに遅れないように、我々は設計の分野でもDXに対応できるようにしていきます。

次回その2(不定期掲載です)では、建築分野のDXとしてのBIM、この辺のところに触れられたらと思います。皆様DXについて良い事例などがありましたら、是非ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。(代表取締役 岩本 茂美)



★昨年の長浜公園の桜★

岩本 茂美 (いわもと しげみ)

株式会社傳設計 代表取締役

《最近のこと》

実は昨年末頃から、耳下腺にできた石(唾石)によって痛み止めを飲む日々が続き、摘出手術も覚悟していましたが、先日ポロリと口腔内に出てきてくれました！石の直径はなんと1cm弱も！今は痛みなく美味しい食事が楽しめることに、日々幸せを感じています。



★障害者グループホームについて★

昨年の夏頃に、今後西日本エリアに障害者グループホームを運営展開していきたいというお客様よりお話を頂きました。障害者グループホームとはどのような施設かを簡単にお伝えしますと、「知的障害や精神障害のある方々が、必要な支援やサポートを受け、共同生活を行うことができる住まい」の事を言います。ただ、市場環境から見てまだまだ供給不足な施設であるようです。

お話を頂いて、早速本プロジェクトのための建設候補地の選定に動き始めました。複数の土地情報から吟味して、昨年末にようやく北九州市八幡西区某所の良好な土地に出会い、今年に入り正式に実施設計を開始し、現在は確認申請の審査、及び、施工業者による工事費見積りを行っているところです。

建物概要は木造2階建て、1階・2階それぞれに居室を10室、ショートステイを1室、あとは共用リビングや食堂、事務室、水廻りで構成されます。今後の予定は、4月中に工事着工～9月中に竣工し、行政手続きや運営準備を経て11月に開所する予定です。尚、9月に建物が完成しましたら、事業者による現地見学会を兼ねたセミナーを開催する予定と伺っています。今回は触り程度の情報にはなりますが、次号のニュース

レターの時にもう少し詳しい情報をお知らせ出来るのかなと思います。今回めでたく1棟目に取り掛かりますが、運営会社様はこれから多く展開していく事が目標とのこと。そのためには良い敷地に巡り合わなければなりません。延床140坪以上・建坪70坪以上の施設建設が行える、接道や周辺含め出来るだけ平坦な土地の情報をお持ちの方がおられましたら、是非ご提供頂けると幸いです。(藤田)



傳設計 設計業務

前回のニュースレター「今、伝えたいこと」にて、社長が思いを巡らせておりましたZEB関連についてお知らせです。このたび、経済産業省によ

る「ネット・ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)実証事業」において、一般社団法人環境共創イニシアチブ(以下、「SII」)が公募する「ZEBプランナー」に、傳設計が登録されました!(登録番号:ZEB2022P-00134)

SIIでは今後の更なるZEBの普及と実現を目指す事業者への支援を目的として、ZEBや省エネビルのプランニングに係わる知見を有する設計会社等を公募・登録・公表されており、「ZEBプランナー」とは、「ZEB設計ガイドライン」や自社が有する「ZEBの設計知見」を活用して一般に向けて広くZEB実現に向けた相談窓口を有し、業務支援を行い、その活動を公表するものとして登録した法人のことです。

ZEBの実現には、建築設計の早期段階から設備・技術の検討を行うことが重要ですが、建築主の視点に

立つと、「知見を有する実務者がどこに実在するか認識しづらい」「どのような仕様書を元に実務者に相談を行えばよいか分かりづらい」など、プロジェクトの初期プロセスにおける「事業主側の判断の難しさ」がZEB顕在化の障壁となっているようです。(「ZEBプランナー登録の目的」より一部抜粋)

今後弊社では、ZEBに関する情報提供・導入意義やメリットの説明(運営・管理費の低減を見込んだライフサイクルコストの削減等)、最適な手法の提案(高効率の照明や空調の導入、建物の高断熱化等の検討等)、補助金申請の支援・サポート(省エネ計算、概算工事費の算出等)などを行い、積極的に支援してまいりますので是非ご相談ください。(佐藤)



ZEB2022P-00134

★登録番号付きのZEBプランナー・マーク★

★ZEBプランナーに登録されました!★

★これからの木造建築物の在り方★

最近『脱炭素』という言葉をよく目にしたり耳にしたりするようになりました。脱炭素とは、地球温暖化の原因となる代表的な温室効果ガスである二酸化炭素の排出量をゼロにしようという取り組みのことです。建築分野で取り組める脱炭素の1つに『大規模木造の普及』があります。木造は建築時に炭素排出が少なく炭素を固定し貯蔵効果があるなど、地球温暖化の防止に貢献することで注目されています。最近では戸建て住宅以外の木造建築物が公共建



築だけでなく民間建築でも増えてきています。

では、木造建築物の材料には何があるのでしょうか。『CLT』は聞いたことがあるかもしれませんが、『NLT』は聞いたことがありますか? NLTはNail Laminated Timberの略で、一般に市場で流通しているツーバイフォー工法用の構造用製材を繊維方向が平行になるように釘のみで接合する構造材のことです。床や天井、屋根などに適しているとされ、床の支持スパンを伸ばすことに

より大空間の設計も実現可能です。大空間の設計が可能となれば今までは鉄骨造や鉄筋コンクリート造でしか設計できなかったダイナミックなデザインも実現可能になるかもしれません! 建物の設計で欠かせない耐火性や遮音性についても現在さまざまな取り組みがされているようです。今後、さらに木造建築物の設計に拍車がかかると想定されるため、傳設計でも木造建物の設計を積極的に行っていきたいと考えています。(堀内)



NEW&HOT TOPIX

今回は、外壁改修工事や防水工事をされている、安藤工事株式会社様にお話を伺いました。

「昨今、外壁の剥落事故の増加により剥落防止対策を取り入れる建物は増加していますが、今回は「予防保全」という言葉に注目してみます。一般的な工法としては浮きが発生している部分(点)のみの部分補修が主流であり、あくまで『現在』の浮

き部への対応であり、『今後』新たに発生する浮きについては考慮されていません。

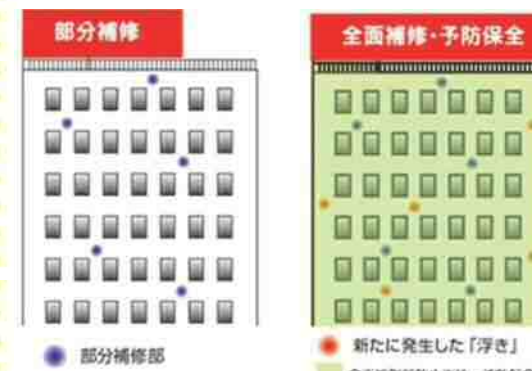
これに対し、新たに発生されるであろう『潜在的な』浮きへの問題や不安を解消するのが予防保全という考え方です。劣化部位のみの点補修ではなく面全体の改修のため長年に渡り剥落防止予防効果が維持できます。また、公共建物においては地震災害の避難場所にもなる為、避難者への2次災害(剥落)を防ぐ為にも予防保全とい考え方は重要です。

面で行う剥落防止には、メッシュを貼るピンネット工法がありますが、左官工の必要性、施工工程の多さによる職人不足含め、工期確保が難しくなっています。そこで、ネットが必要なく大幅



に工期が短縮できる「ノンネットガードU工法」を新たに提案しています。左官工が必要なく、防水(塗装)工で施工が可能であり、特殊アンカーを用いて高強度1成分形ウレタン樹脂にて外壁面を全面被膜し、将来的な剥落の懸念を払拭できる新発想の工期短縮・省人化型の予防保全剥落防止工法です。」

事故や災害はいつ起きるかわかりません。事故を未然に防ぐ、また災害時に被害を抑えるためにも予防保全が広まるといいですね。(林田)



★外壁剥落防止工法『予防保全』のご紹介

～安藤工事株式会社様～★

★DX化に向けて★

社長から、業務改善のため「見える化」と「脱属人化」を進めてほしいと言われたこともあり、今年に入ってからDX推進の取り組みをはじめました。

以前からシステム化は行っていました、入力するのが手間だったり、データを加工しないと使えなかったりと不便さがありました。

まずは、ネットで「DX化」について調べ、さらに各会社が行う「DX化」についてのセミナーや体験コーナーに参加しました。その中で「DX化」によって何ができるのかが少しずつわかってきました。

業務改善のための「見える化」が個人の抱える問題を早期に見出し、チームで共有し解決する。コミュニケーションを十分にとることで不安が解消できる環境になる。さらに情報共有による「脱属人化」が、担当者不在でも速やかな対応を可能にし、相互に協力することができる。「DX化」が職場環境の改善につながり、さらに効率化や省力化が図られます。そうすれば、新たな物件の受注や手を付けられていない新規の業務にも取り組むことができます。

「DX化」がもたらす効果に期待しつつしっかり進めていきます。(岩本(玲))



社員名鑑 vol.46



氏名: 林田 真知

社歴: 4年

所属: 設計部

主な業務: 意匠設計

趣味: 旅行、音楽鑑賞、散歩

早いことで入社して4年が経ちました。

先日設計業務から監理業務まで初めて担当した物件が竣工し、設計を行った建物が実際に建つ流れを初めて見て体感しました。初めてBIMを使って作図を行った物件でもあり、最初の頃は2Dの作業とは違い慣れない操作で苦戦しましたが、実務を行いながら次第に慣れていきました。BIM特有の3Dモデルを用いて意図伝達を行うことで、相手にも意図が伝わりやすく、完成イメージを共有しながら進めていくことが出来たと思います。

4月から社会人5年目になります。後輩も増えてきたので、これまで学んだことを引き継ぎながら、新しいことにも挑戦し続けていきたいと思っています。

★2年ぶりの交流会★

前回計画中との記事を書かせておりましたが、2月25日(土)にフットサル大会+BBQを実施いたしました。協力会社様に場所をお借りして傳設計の若手社員と、協力会社様の若手社員の方々の計23名が参加し、交流を深めてまいりました。

フットサルでは4チームに分かれ、コートを走り回ったりキーパーに挑戦しました。優勝したチームはほぼ全員がゴールを決めていました。BBQは雨の中でしたが、運動後のお肉は格別においしかったです。新型コロナウイルスの影響で、社員同士の交流も自粛しておりましたので、新たな一面を多く発見することが出来ました。また、同じ業務をした社員と協力会社の方が大変だったことや学びを話している姿も見かけました。コロナ明けにふさわしい交流会になったと感じています。

改めて幹事さん・参加して下さった協力会社の皆様ありがとうございました。ちなみに、翌日はやはり筋肉痛に見舞われました(涙)(平野)



★集合写真★



★頑張ってボールを
追いかけています★

編集後記///桜が綺麗な季節ですね。私が子供の頃は入学式の時に桜が満開だった印象がありますが、今は地域によっては散り始めている所も多いですね。温暖化の影響らしいですが、このまま温暖化が進めば桜が咲かない地域がでてくる可能性があるとか。出来る対策を取って桜を守らねば!と思いました。/アンケートを同封しておりますので、ニュースレターのご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。(服部)



「想い・安全・未来をカタチに」
株式会社 傳設計
DEN ARCH. & ENG. OFFICE

〒810-0073

福岡市中央区舞鶴1-6-13 舞鶴DSビル

TEL:092-737-1500 (代表)

FAX:092-737-1501

